



ブラインドサッカー競技規則

2022年～2025年

B1 & B2/ B3 カテゴリー

INTERNATIONAL BLIND SPORTS FEDERATION
BLIND FOOTBALL LAWS
2022-2025

NPO 法人日本ブラインドサッカー協会 審判部
2022年4月

文章表現に疑義が生じた場合は、英語版のブラインドサッカー競技規則に基づくものとする。

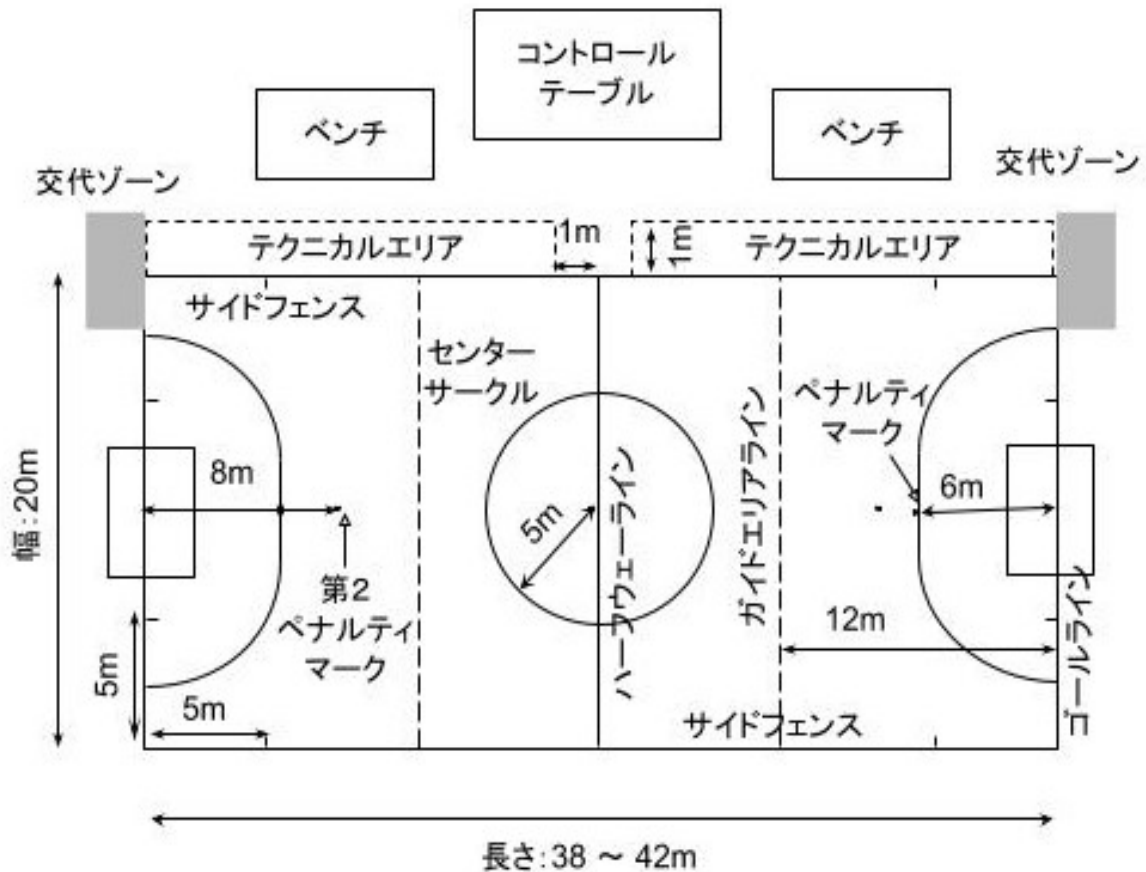
2017-21 からの改正部分は罫線 | で表示する。

目次 2

第1条 ピッチ	3
第2条 ボール	8
第3条 競技者の数	9
第4条 競技者の用具	12
第5条 主審	14
第6条 副審	16
第7条 タイムキーパー、スコアラー、アナウンサー	17
第8条 試合時間	19
第9条 プレーの開始および再開	20
第10条 ボールインプレー、およびボールアウトオブプレー	22
第11条 得点の方法	23
第12条 ファウルと不正行為	24
第13条 フリーキック	28
第14条 累積ファウル	30
第15条 ペナルティーキック	32
第16条 キックイン	34
第17条 ゴールクリアランス	35
第18条 コーナーキック	37
試合の勝者を決定する方法	38
競技会規定	39
付録	40
よくある質問と IBSA FOOTBALL の回答	41
1 大会中の制裁	45
B 2 / B 3 カテゴリーにおける競技規則	46
日本語版付録	49

第1条 ピッチ

エリアを囲むラインはそのエリアの一部であるので、長さはラインの外側から計測される。ピッチの大きさとその付帯設備は次の図に示す通りとなる。



ピッチは最適な音響を保つため、常に屋根無しとする。

降り続く雨、強風など、組織委員会が対応できないほどの悪天候時に、競技会の継続を妨げないよう、同様の特性のピッチを持つ屋根付きの代替施設が使用できなければならない。ピッチの表面は木製、合成ゴム、またはそれに類似するものとする。

代替施設は、競技会開始前に International Blind Sports Federation（以下、IBSA という）技術委員と組織委員会からの視察と認可を受けなければならない。IBSA 技術委員と組織委員会はピッチの照明が夜間や屋内の試合に適しているかを、必要に応じて点検するものとする。

大きさ

ピッチは、長方形とする。タッチラインの長さは、ゴールラインの長さより長くなければならない。

第1条 ピッチ 4

国際試合

長さ： 最小 38m 最大 42m
幅： 20m

ピッチのマーキング

ピッチはラインでマークしなければならない。エリアの境界線を示すラインはそのエリアの一部である。長い方の2本の境界線をタッチラインという。タッチラインは、タッチラインの全長を覆うフェンスによって形成され、そのフェンスは両方のゴールラインを超えて1m長くてもよい。フェンスは100cmから120cmの高さとし、ピッチの外側に10度以内の傾きとする。

短い方の2本の境界線をゴールラインという。

すべてのラインの幅は8cmである。ピッチはハーフウェーラインで半分に分けるものとする。

ハーフウェーラインの中央にセンターマークをしるす。これを中心に半径5mのサークルを描く。

ガイドエリアのマーキング

ガイドエリア（3分割）は以下のように描く。

それぞれのゴールラインから12mの距離に、ゴールラインと平行にピッチの一方のサイドから他方のサイドまで点線で描く。したがってピッチは以下のように3分割にされる。

1. 守備エリア
2. 中盤エリア
3. 攻撃エリア

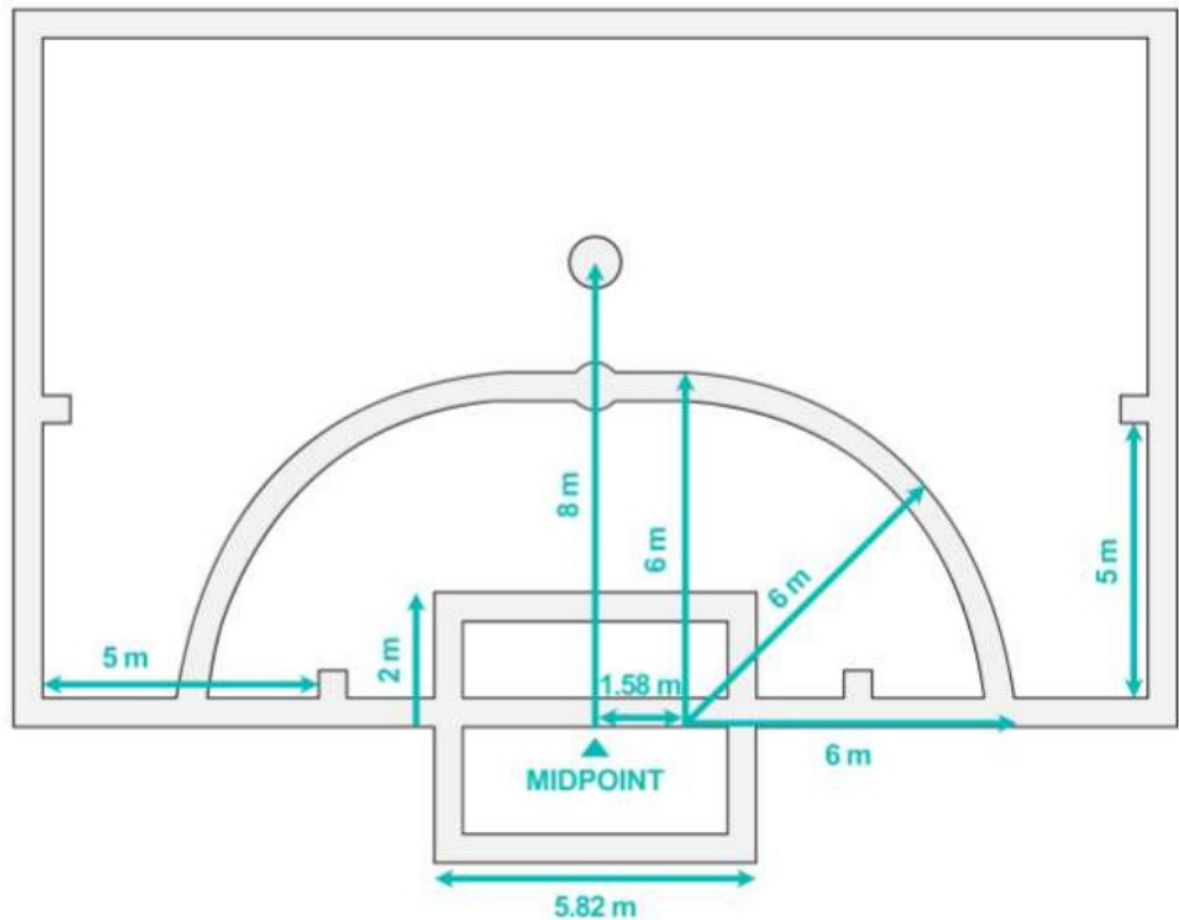
ペナルティーエリア

ピッチの両端に、次のようにペナルティーエリアを設ける。

ゴールラインの中央から右側のフェンスに向かって1.58mの距離を最初にマークする。そのマークからゴールラインに直角に6mの仮想ラインを引く。その仮想ラインの終点から、近い方のフェンスに向かって、最初のマークから半径6mの四分円を描く。

ゴールラインの中央から左側のフェンスに向かって1.58mの距離をその次にマークする。そのマークからゴールラインに直角に6mの仮想ラインを引く。その仮想ラインの終点から、近い方のフェンスに向かって、最初のマークから半径6mの四分円を描く。

それぞれの四分円の上端を、二つのマークの間にあるゴールラインと平行な3.16mのラインによって結ぶ。



ゴールキーパーエリア

それぞれのゴールポストの外側から両側のフェンスに向かって1 mを測定する。この地点からゴールラインに垂直に、ハーフウェーラインに向かって、それぞれ2 mのラインを2本引く。その2本の線を5.82mの長さで、ゴールラインと平行になるように結ぶ。このエリアがゴールキーパーエリアである。

ペナルティーマーク

両ゴールポストの中央で、両ゴールポストから等距離の6 mの地点にペナルティーマークを描く。

第2ペナルティーマーク

両ゴールポストの中央で、両ゴールポストから等距離の8 mの地点に第2ペナルティーマークを描く。

第1条 ピッチ 6

ゴール裏のガイドエリア

両ゴールの中央から、サイドフェンスの方向に 2.91mを測定する。2mの2本のラインをピッチの外側でゴールラインに垂直に引く。これら2本のラインをゴールラインに平行な 5.82mの線で結ぶ。このエリアをゴール裏のガイドエリアと呼ぶ。このエリアは、ガイドの責務が正しく果たせるよう、障害物等を除くこと。

コーナーアーク

フェンスとゴールラインが交わる点をコーナーアークと呼ぶ。

テクニカルエリア

ベンチはよく見えるようにピッチより高いところに、オフィシャル席と同じ側に置く。各チームベンチは守備側エリアの近くに置く。各チームに1人のみがボールがインプレーの時、中盤エリアにいる競技者に指示を与えられる。

テクニカルエリアはピッチ面に描かれる。テクニカルエリアはフェンスと平行でフェンスの外側部分から1mの距離でチームベンチ方向に引かれた線で示される。チーム役員1名と通訳（必要な場合）のみがテクニカルエリアに入ることができる。その他のチーム役員および交代要員はテクニカルエリアの外にいないなければならない。テクニカルエリアからは、その都度ただ1人のみが戦術的指示を伝えることができる。

交代ゾーン

交代は各チームのベンチに最も近いコーナーアークから行われる。

ゴール

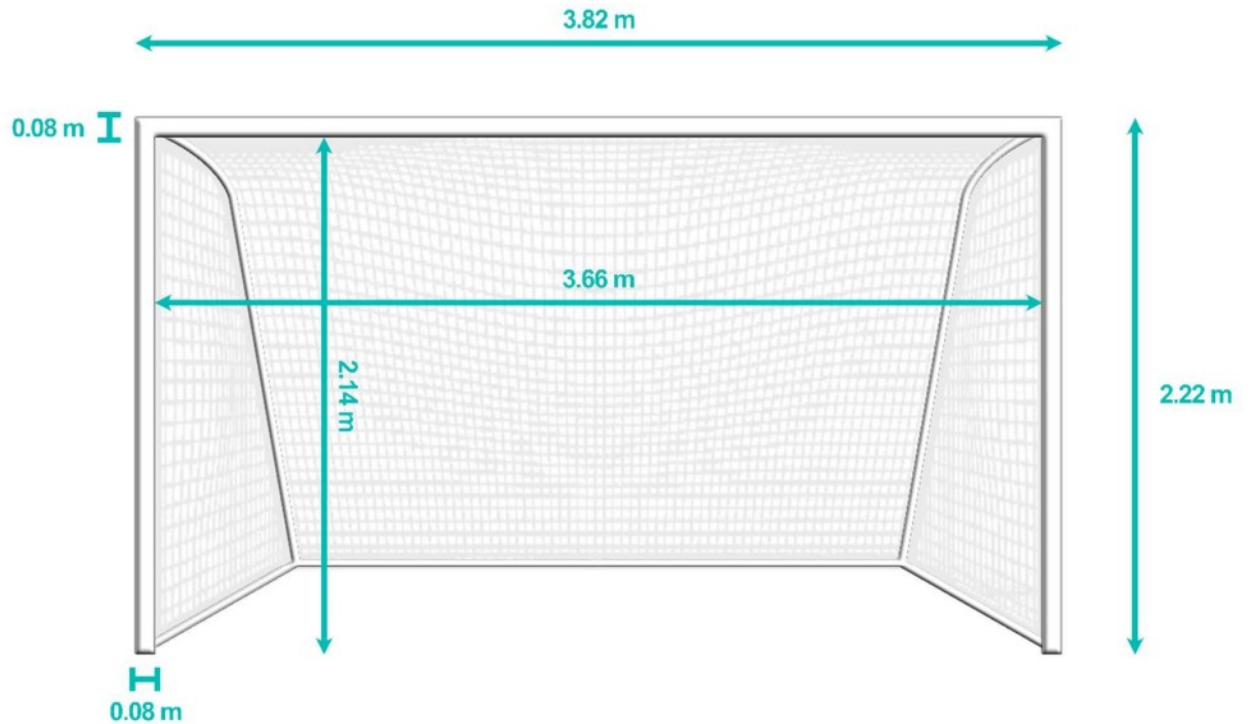
ゴールの色は白とし、ゴールはそれぞれのゴールラインの中央に置く。

ゴールは、各コーナーから等距離に垂直に立てられた2本のポストと、その頂点を結ぶ水平なクロスバーからなる。

ポストの間隔は、3.66m（内測）で、クロスバーの下端からピッチ面までの高さは、2.14mである。

ゴールポストとクロスバーは、同じ幅と同じ厚さで8cmとする。ネットは麻、ジュート、またはナイロンでできたもので、ゴールポストとクロスバーの後方に取り付けなければならない。ゴールの下部は、曲げられたバーあるいは適当な形状物で支持する。

ゴールの奥行きは、ゴールポストの内側の端からピッチの外側に向かって、少なくとも上部において80cm、ピッチ面において100cmとする。



安全性

ゴールは、移動式のものでも良いが、試合中は、ピッチ面に対して確実に固定しなければならない。競技者の安全のため、ゴールラインといかなる障害物との最低限の距離は2 mとする。それが不可能な場合、このエリア内のいかなる障害物も安全で競技者を保護するものであること。

ピッチの表面

ピッチの表面は木、天然芝または人工芝が望ましい。平坦かつ滑らかであり、摩擦のないものとする。（砂や水を張ったアストロターフは認められない。）コンクリートやアスファルトは、避けるべきである。

第2条 ボール 8

第2条 ボール 品質と規格

ボールは、次のものとする。

- 球形。
- 皮革、または、その他の適切な材質でできている。
- 外周は、60cm以上、62cm以下。
- 重さは、試合開始時に510g以上、540g以下。
- 空気圧は、海面の高さの気圧で0.4~0.6気圧(400~600g/cm²)。
- 音源システムはボールの通常の軌道を歪めないように、ボール内部に備えられているものとする。常に競技者の安全を確保するために、ボールがピッチ上、もしくは空中で回転しているときに確実に音が出るものとする。

欠陥が生じたボールの交換

試合の途中でボールが破裂する、または欠陥が生じた場合、

- 試合は停止される。
- 試合は、ボールに欠陥が生じた場所で、交換したボールをドロップして再開される(ドロップボールのプロセス)。

試合中にボールの音が止まった場合、

- 試合は停止しない。
- ボールの音が鳴り始めるように、主審・第2審判はボールを軽く動かす。

ボールがインプレー中ではない場合(キックオフ、ゴールクリアランス、コーナーキック、フリーキック、ペナルティーキック、キックイン、または第2ペナルティーキック)に、ボールが破裂する、または欠陥が生じた場合、

- 試合はブラインドサッカー競技規則に規定される方法で再開される。

試合中、ボールは主審・第2審判の承認を得ずに交換できない。

決定

1. IBSA 主催競技会、または IBSA 所属組織の試合では、IBSA 公式ボールを使用するものとする。

第3条 競技者の数

競技者

試合は、4人の全盲（B1カテゴリー）プレーヤーと、1人の晴眼、または弱視（B2、または、B3カテゴリー）のゴールキーパーの5人以下の競技者からなる2つのチームによって行われる。それ以外にガイド1人。

チームは、フィールドプレーヤー8人、ゴールキーパー2人、ガイド1人、コーチ1人、アシスタントコーチ1人、医師1人、理学療法士1人の最大15人で構成されるものとする。

コーチの通訳1人が認められる（チームが必要とすれば）。通訳は正式なチームメンバーとはしない。

交代の進め方

交代は、公式競技会やIBSAや各国協会規定のもとで行われるすべての試合で認められる。

B1の交代要員は、最大4人のフィールドプレーヤーと1人のゴールキーパーまでとする。2人のゴールキーパーがともに負傷した場合は、大会ドクターの診察のもとチーム役員がゴールキーパーになれる（B1競技者は除く）。各国代表チームの場合、ゴールキーパーと交代するチーム役員は、当該チームと同じ国籍でなければならない。

試合中に行われる交代者数は、各ピリオドそれぞれ6人を限度とする。ハーフタイム中の交代者数は各ピリオドの交代者数に含まれない。交代で退いた競技者は交代要員となり、他の競技者と交代してピッチに戻ることができる。

交代は、ボールがアウトオブプレー中に、以下の条件のもとに行われる。

- プレーが停止したとき。
- すべての交代において、ピッチを出る競技者の番号とピッチに入る交代要員の番号を含めて、拡声装置を通してアナウンスする。
- ピッチを出る競技者は、自分自身のチームの交代ゾーンから出る。
- ピッチに入る交代要員も、自分自身のチームの交代ゾーンから入る。ただし、ピッチを出る競技者が完全にタッチラインを越えて外に出て、主審・第2審判よりピッチに入る許可をもらうまで、ピッチに入ることができない。
- 交代要員は、出場する、しないにかかわらず、主審・第2審判の権限、および管轄下にある。
- 交代は、交代要員がピッチ内に入った時に完了し、その瞬間から、交代要員は競技者となり、交代して退いた競技者は交代要員となる。

違反と罰則

ボールがインプレー中に交代要員がピッチ内に入った場合、

- プレーを停止する。
- 交代要員に警告を与え、イエローカードを示しピッチから離れるよう命じる。
- 試合を停止したときにボールのあった位置から、相手チームの間接フリーキックによりプレーを再開する。

第3条 競技者の数 10

決定

1. ペナルティーキック、第2ペナルティーキックが与えられたとき、ゴールキーパーの交代は認められる。
第2ペナルティーキック、ペナルティーキックのキッカーは、反則が行われる前にピッチにいないなければならない。チームが交代を要求していた場合でも、交代でピッチに入った競技者はいかなる場合もキッカーになれない。
2. 試合中に5つのパーソナルファウルを犯した競技者は、各ピリオドそれぞれ6人の交代を終えていなければ、速やかに交代することができる。この競技者はその後、その試合に出場することはできないが、チームベンチに残ることは許される。
3. 試合中、レッドカードにより退場を命じられた競技者は、各ピリオドそれぞれ6人の交代を終えていなければ、ブラインドサッカー競技規則に則り交代することができる。ただし、チームベンチに残ることはできない。
4. 試合開始時には、4人の競技者（ゴールキーパー1人、フィールドプレーヤー3人）がいなければならない。
5. 退場や怪我によって、いずれかのチームの競技者の数が3人未満（ゴールキーパーを含む）になった場合、試合は放棄される。
6. キャプテンの責務：
 - 試合を通して自チームの代表とし、主審・第2審判・第3審判や他の競技役員との対応に責任を負い、自チームの他の競技者が品行方正な行動とスポーツマンシップを維持するよう努める。他の競技者と区別できるよう、キャプテンは片方の腕に腕章を着用する。
 - キャプテンが会場を去る場合や退場になった場合を除いて、ピッチを出る際に必ずしもキャプテンを交代する必要はない。
7. 医師の診察を求めた競技者は、診察後ピッチを出なければならない。交代要員と代わることはできる。
8. ピッチに入る、または再び入る競技者は、常に試合が停止したときに、主審・第2審判の承認を得て適切な場所から入る。
9. ゴールキーパーが退場を命じられ、チームが6人の交代数を既に完了していた場合、フィールドプレーヤー1人をピッチから退かせ、交代要員のゴールキーパーを退場させられたゴールキーパーの代わりにピッチに入れる。チームは1人のゴールキーパーと3人のフィールドプレーヤーで試合を続ける。交代要員は退場になったフィールドプレーヤーと代わることができ、退場後2分間を経過し、ボールがアウトオブプレーになったときにピッチに入ることが出来る。但し、2分間を経過する前に得点があった場合はこの限りではない。（第12条ファウルと不正行為 決定を参照のこと）

10. ゴールキーパーが負傷し既に6人の交代数を完了している場合、主審・第2審判が認め、かつ大会ドクターがいない場合はゴールキーパーの所属しているチームのドクターまたは理学療法士が診断を行って交代要員のゴールキーパーと交代することができる。負傷したゴールキーパーは、ハーフタイムまで交代してピッチに戻ることはできない。その負傷が第2ピリオドに起きた場合、その負傷したゴールキーパーは次の試合まで出場することはできない。
11. 1人以上の競技者が意図的にピッチから出たために1チームの競技者が3人未満（ゴールキーパーを含む）となった場合、主審・第2審判は、プレーを停止する必要がなく、アドバンテージを適用することができる。ただし、ボールがアウトオブプレーになった後に1チームの競技者が3人未満である場合、試合を再開してはならない。
12. 「IBSA ブラインドサッカーの脳震盪による一時的な交代ルール」は、IBSA がすべての公式ブラインドサッカー競技会を開催するために採用された。

第4条 競技者の用具 12

第4条 競技者の用具

安全

競技者は、自分自身、または他の競技者に危険な用具を用いる、あるいは装身具類を含むその他のものを身につけてはならない。

基本的な用具

競技者が身につけなければならない基本的な用具は次のものである。

- ジャージまたはシャツ。
- ショーツ：保温性アンダーショーツを着用する場合、その色はショーツの主たる色と同じでなければならない。
- ソックス。
- すね当て。
- 靴：キャンバス、または柔らかい皮革製で、靴底がゴム、または類似の材質のトレーニングシューズ、または体育館用シューズのタイプのみが許される。靴は、必ず着用しなければならない。いかなるスパイクシューズも使用は認められない。

B 1 競技者の用具

上記の基本的な用具に加え、B 1 競技者は下記の用具を装着する。

- 両目にアイパッチ。
- 緩衝性の素材でできた、前部と頭頂部に詰めもののあるアイマスク。これは、IBSA 技術委員により監視される。IPC 主催試合、IBSA 世界選手権、IBSA 地域トーナメント、IBSA 公式試合においては、IF サブコミッティーで承認された公式マスクが必須のアイマスクとなる。
- 保護用のヘッドギア（義務ではない）。

ジャージまたはシャツ

-
- シャツには、同じチームの競技者に異なる背番号が付けられなければならない。
 - 背番号の色は、シャツの色と明らかに区別がつくものとする。

国際試合においては、背番号より小さなものでよいが、シャツまたはショーツの前にも番号を付けるものとする。

すね当て

-
- ソックスによって完全に覆われている。
 - ゴム、プラスチック、または同質の適切な材質でできている。
 - それ相応に保護することができる。

ゴールキーパー

- ゴールキーパーは、長いトラウザーズを穿くことができる。
- それぞれのゴールキーパーは、他の競技者、および主審・第2審判と容易に区別のつく色の服装を着用しなければならない。

違反と罰則

本条に関する違反があった場合、

- プレーは停止される必要はない。
- 用具が正しくない競技者は、既に正されている場合を除き、主審・第2審判にピッチから離れて用具を正すように指示される。
- 用具を正すためにピッチを離れるように求められた競技者は、主審・第2審判の承認なくピッチに復帰してはならない。
- 主審・第2審判は、競技者のピッチへの復帰を認める前に、用具が正されたことを点検する。
- 競技者は、ボールがアウトオブプレー中のときのみピッチに戻ることができる。

決定

1. 保護用のアイマスクが、競技者の安全を脅かすと主審・第2審判が判断した場合、それらの装着は許可されない。
2. 保護用のヘッドギアを頭部外傷の予防のために使用することができる。インプレー中に、競技者のヘッドギアが外れた場合は、試合を停止すべきではない。アウトオブプレー中に、すぐに主審・第2審判はヘッドギアを着けさせるために競技者に渡すべきである。

第5条 主審 14

第5条 主審

主審の権限

それぞれの試合は、ピッチの設置された施設に入ったその時からその場所を離れるまで、任命された試合に関してブラインドサッカー競技規則を施行する一切の権限を持つ、主審によってコントロールされる。

職権と任務

主審は、

- ブラインドサッカー競技規則を施行する。
- 反則をされたチームがアドバンテージによって利益を受けそうなときは、プレーを続けさせる。しかし、予期したアドバンテージがその時に実現しなかった場合は、そのもととなった反則を罰する。
- 試合の記録を取り、関係機関に審判報告書を提出する。報告書には、試合前、試合中、または試合後の、競技者、ガイド、あるいはチーム役員に対する懲戒処置やその他の出来事に関する情報が含まれる。
- タイムキーパーがいない場合、その任務を担う。
- ブラインドサッカー競技規則のあらゆる違反に対して、または外部からの何らかの妨害があった場合、試合を停止し、一時的に中断し、または中止する。
- 警告や退場となる違反を行った競技者、ガイド、またはチーム役員に懲戒措置をとる。
- 認められていない者がピッチに入らないようにする。
- 競技者が重傷を負ったと判断した場合、試合を停止し、確実に負傷者をピッチから退出させる。
- 競技者の負傷が軽く、他の競技者が負傷者を踏みつける危険性がないと判断した場合、ボールがアウトオブプレーになるまでプレーを続けさせる。
- 使用するすべてのボールを確実に第2条の要件に適合させる。
- 停止された試合を再開する。
- 拡声設備を利用して、ピッチ周辺の静寂が保たれるようにする。
- 言葉やシグナルで、タイムキーパーの机に向かって、試合中に起こった状況を確実に知らせる。
- 試合開始前、交代の際、タイムアウトの後、第2ピリオドが始まる時、あるいは主審・第2審判が必要と見なしたときに、競技者の用具を点検する。
- 試合中のいかなる状況でも、アイマスク、ヘッドギア、アイパッチが正しく装着されているか点検する。競技者のアイマスク、ヘッドギア、アイパッチの位置を修正するために、競技会責任者にアイマスクやヘッドギアを交換するように指示する。
- ガイドエリアに関する規則を順守させる。
 1. 守備エリア（ゴールキーパー）
 2. 中盤エリア（コーチ）
 3. 攻撃エリア（ガイド）

主審の決定

プレーに関連する主審の決定は、最終である。

決定

1. 主審と第2審判の両者が違反に対して同時に合図し、どちらのチームを罰するかに不一致があった場合、主審の判定が優先される。
2. 主審のみが競技者にカードを提示できる。主審と第2審判は警告、退場の記録をとる。

第6条 副審

第2審判の任務

第2審判も笛を持ち、主審とは反対側のサイドのピッチで任務を行う。

第2審判は、主審がブラインドサッカー競技規則に従って試合をコントロールすることを援助する。

タイムキーパーが不在の場合、退場者が出た後の2分間を計測する。

タイムキーパーが不在の場合、タイムアウトの時間を計測する。

第2審判による不法な干渉、または不当な行為があった場合、主審はその第2審判を解任し、代替を補充し、IBSA 競技会規則の様式により期限内に関係機関に報告書を提出する。

決定

1. 国際試合においては、必ず第2審判を置かなければならない。

第3審判

第3審判は、

- 主審、または第2審判のいずれかが試合の審判の続行ができなくなった場合は、第2審判と交代する。
- 交代が試合中に行われた場合の支援を担当する。
- 交代要員がピッチに入る前に、その用具を点検する権限を持つ。用具がブラインドサッカー競技規則に従っていない場合、交代は認められない。
- チームベンチにいる、いかなる者の不適切な行動を、主審、または第2審判に知らせる権限を持つ。
- 警告の記録をとる

第7条 タイムキーパー、スコアラー、アナウンサー 任務

タイムキーパー1人とスコアラー1人、アナウンサー1人が任命され、交代ゾーンと同じサイドのピッチ外で、ハーフウェーラインのところに座る。

タイムキーパー

タイムキーパーは、正確な時計（ストップウォッチ）、およびファウルの累積を表示するために必要な機器を用いる。試合を行うピッチがあるところの協会、またはホストチームがこれらの機器を用意する。

- 次により、第8条の規定に基づく試合時間を確保する。
 - ・キックオフの後に時計（ストップウォッチ）をスタートする。
 - ・主審・第2審判が以下の決定をした際に時計（ストップウォッチ）を止める。
 - フリーキック
 - キックイン
 - ゴールクリアランス
 - コーナーキック
 - レフリータイムアウト
 - チームのタイムアウト
 - 負傷した競技者の処置
 - 競技者の交代
 - ペナルティーキック、第2ペナルティーキック
 - 得点

主審・第2審判がプレーを再開するために笛を吹いた直後に、タイムキーパーは時計（ストップウォッチ）を再スタートする。

試合は常にボールがインプレー中に終了する。

- 1分間のタイムアウトを計測する。
- 2分間の退場時間を計測する。
- 各ピリオド15分間の終了を、音で合図する。主審・第2審判が終了の合図の笛を吹かない場合でも、音による合図があったとき、各ピリオドは終了する。

ピリオドの終了間際で5つ目以降の累積ファウルに与えられる直接フリーキックまたはペナルティーキックが与えられた場合、キックが完了したときに、ピリオドは終了する。

ボールがインプレーになった後、次のことが起きたときにキックは完了する。

 - ・ボールの動きが止まった、またはアウトオブプレーになった。
 - ・ボールが、守備側ゴールキーパーを除く、いずれかの競技者（キッカー本人も含む）によってプレーされた。
 - ・キッカーまたはキッカーのチームの競技者に反則があり、主審・第2審判がプレーを停止した。
 - ・タイムキーパーの音による合図によってピリオドの終了が示された後であっても、上記の状況においてのみ、ブラインドサッカー競技規則の規定に基づきボールがゴールに入ったときに限り得点が認められる。

これ以外のケースで、ピリオドは延長されない。

スコアラー

-
- 各チームのタイムアウトを記録し、それに従って主審・第2審判と両チームに伝える。また、どちらかのチームのコーチからタイムアウトの要求があったとき、その許可を記録する。（第8条）。
 - 各ピリオドそれぞれにおいて、主審・第2審判から合図された各チームの累積ファウルの初めの4つを記録する。さらに、一方のチームが4つ目の累積ファウルを犯したときに、タイムキーパーの机の上に表示板を置いて示す。
 - 試合中、各競技者が犯した5つのパーソナルファウルを記録する。
 - 得点者の番号を記録する。
 - 警告、退場を命じられた競技者、ガイド、チーム役員の名前と番号を記録する。

拡声装置を用いたアナウンサー

-
- 拡声装置はタイムキーパーの机の上に設置される。
 - 試合が停止したことを示し、試合中のすべての出来事（反則、交代、タイムアウト、その他の試合中の出来事、タイムアウトやハーフタイム中の交代を含む）を知らせるために常に用いる。アナウンサーはそれらの出来事を伝えるために、拡声装置を使用しなければならない。
 - マッチオフィシャルの指示のもと、観衆に静寂を保たせるために拡声装置を使用する。

タイムキーパー、スコアラー、アナウンサーによる不法な干渉があった場合、主審はそれらの者を解任し、代替を補充し、IBSA 競技会規則の様式により期限内に関係機関に報告書を提出する。

決定

-
1. 国際試合においては、タイムキーパー、スコアラー、拡声装置を置かなければならない。

第8条 試合時間

プレーのピリオド

試合は、15分間の同じ長さからなる2つのピリオドで行われる。

計測は、その任務について第7条に規定しているタイムキーパーが行う。

当該ピリオドはペナルティーキック、第2ペナルティーキックが終了するまで延長される。

タイムアウト

チームは、各ピリオドそれぞれ1回、1分間のタイムアウトをとることができる。タイムアウトには、次の条件が適用される。

- 両チームのコーチは、タイムキーパーに対し1分間のタイムアウトを要求できる。
- 1分間のタイムアウトはいつでも要求できるが、タイムアウトを要求するチームがボールを保持しているときに限り許可される。
- タイムキーパーは、タイムアウトを、ボールがアウトオブプレーのときに主審・第2審判が用いるものと異なった音色の笛やその他の音で合図する。
- タイムアウト中、競技者はピッチ内にいなければならない。チーム役員からの指示を受けたい場合、チームベンチ前のフェンス際でのみ指示を受けられる。指示を与えるチーム役員は、ピッチ内に入ってはならない（ガイドは例外で、タイムアウトの際にピッチ内に入ることができる）。
- チームが試合の第1ピリオドにタイムアウトを要求しなくても、第2ピリオドに要求できるタイムアウトは1回のみである。

ハーフタイムのインターバル

ハーフタイムのインターバルは、10分を超えてはならない。

決定

-
1. タイムキーパーが置かれていない場合、コーチは主審にタイムアウトを要求することができる。
 2. 試合の各ピリオドの開始が一方、もしくは両方のチームの責任で遅れた場合、それぞれのチームのコーチは警告される。

第9条 プレーの開始および再開

試合前

コイントスに勝ったチームが、第1ピリオドにどちらのゴールを攻めるのか、またはキックオフを行うのかを決める。

この結果により、相手チームがキックオフを行うのか、または第1ピリオドにどちらのゴールを攻めるのかを決める。

第1ピリオドにどちらのゴールを攻めるのかを決めたチームは、第2ピリオド開始のキックオフを行う。

第2ピリオドには、両チームはエンドを替え、反対のゴールを攻める。

交代要員とチーム役員は守備側のハーフをチームベンチとして使用する。

キックオフ

キックオフは、プレーを開始、または再開する方法のひとつである。

- 試合開始時。
- 得点の後。
- 試合の第2ピリオド開始時。
- キックオフから相手競技者のゴールに直接得点することができる。ボールがキッカー側のゴールに直接入った場合、相手競技者にコーナーキックが与えられる。

進め方

- すべての競技者は、ピッチの自分自身のハーフ内にいなければならない。
- キックオフをするチームの相手競技者は、ボールがインプレーになるまで5m以上ボールから離れる。
- ボールは、センターマーク上に静止していなければならない。
- 主審が合図をする。
- ボールは、けられて動いたときにインプレーとなる。
- キッカーは、他の競技者がボールに触れるまではボールに再び触れることはできない。一方のチームが得点をしたのち、他方のチームがキックオフを行う。

違反と罰則

他の競技者がボールに触れる前にキッカーがボールに再び触れた場合、

- 違反の起きた時にボールのあった位置から行われる間接フリーキックが、相手チームに与えられる（第13条：フリーキックの位置を参照）。

キックオフの進め方に関してその他の違反があった場合、キックオフを再び行う。

ドロップボール

ボールがインプレー中に、ボールがフェンスやゴールラインを越える前に、ブラインドサッカー競技規則のどこにも規定されていない理由によって、主審・第2審判が一時的にプレーを停止する必要があると判断した場合、ドロップボールは試合を再開する方法のひとつである。

進め方（*日本語版注釈 審判員のためのガイドライン参照）

主審・第2審判は、プレーを停止したときにボールがあった地点でボールをドロップする。ただし、ペナルティーエリア内でプレーが停止された場合、プレーを停止したときにボールがあった地点に最も近いペナルティーエリアライン上でボールをドロップする。

ボールがピッチ面に触れたときにプレーが再開される。ボールは垂直ではなく、フェンスに向かってドロップする。

違反と罰則

次の場合、ボールを再びドロップする。

- ボールがピッチ面に触れる前に競技者がボールに触れる。
- ボールがピッチ面に触れたのちに、競技者が触れることなくピッチの外に出る。

第 10 条 ボールインプレー、およびボールアウトオブプレー

ボールアウトオブプレー

ボールは、次のときにアウトオブプレーとなる。

- ピッチ面、または空中にかかわらず、ボールがゴールラインを完全に越えた、またはフェンスを空中で完全に越えた。
- 主審・第 2 審判がプレーを停止した。
- ボールが天井に当たる。

ボールインプレー

これ以外、ボールは、次の場合も含めて常にインプレーである。

- ボールがゴールポスト、またはクロスバーからはね返ってピッチ内にある。
- ボールがピッチ内にいる主審・第 2 審判からはね返る。
- ボールがフェンスにはね返り、ピッチ内にとどまる。

決定

1. 屋内のピッチで試合が行われているときにボールが天井に当たった場合、最後にボールに触れたチームの相手チームに与えられるキックインにより試合を再開する。
2. キックインは、ボールが当たった天井下の場所に最も近いタッチライン上から行う。

第 11 条 得点の方法

得点

ゴールキーパーを含む攻撃側の競技者が手や腕を用いて、ボールを投げ、運び、または意図的に押し進めた場合を除き、ゴールポストの間とクロスバーの下でボールの全体がゴールラインを越えたとき、その前にゴールにボールを入れたチームがブラインドサッカー競技規則の違反を犯していなければ、1 得点となる。

勝利チーム

試合中により多くの得点をあげたチームを勝ちとする。両チームが同点、または共に無得点の場合、試合は引き分けである。

得点とはならない（ボールが審判に触れた場合）

ボールが主審または第 2 審判に触れ直接ゴールに入った場合、得点は認められず、プレーはドロップボールにより再開される。

競技会規定

引き分けに終わった試合のために、試合の勝者を決定するための方法を競技会規定に設けることができる。

第 12 条 ファウルと不正行為 24

第 12 条 ファウルと不正行為

1 試合を通じてパーソナルファウルを 5 つ犯した競技者はピッチを出なければならない。該当競技者の交代はすぐに行われるが、その競技者はその試合に再び出場することはできない。

ファウルと不正行為は次のように罰せられる。

累積ファウルとパーソナルファウル

競技者が次の 8 項目の反則を不用意に、無謀に、または過剰な力で犯したと主審・第 2 審判が判断した場合、直接フリーキックが相手チームに与えられる。

- 相手競技者をける、またはけろうとする。
- 相手競技者をつまずかせる。
- 相手競技者に飛びかかる。
- 相手競技者にチャージする。
- 相手競技者を打つ、または打とうとする。
- 相手競技者を押す。
- 相手競技者にタックルする。
- 頭を下げてボールをプレーする、タックルする、またはボールを探す。

次の 5 項目の反則を犯した場合も、直接フリーキックが相手チームに与えられる

- ボールを探したり、タックルしたりするときに、ボール保持者が相手競技者を避けるため方向を変えられるように、「ボイ」、「ゴー」、もしくはそれに類する言葉を明確に、聞き取れるように言わない。
- ボールを意図的に手、または腕で扱う（ゴールキーパーが自分のゴールキーパーエリア内にあるボールを扱う場合を除く）。
- 相手競技者を押さえる。
- 相手競技者につばを吐く。
- 相手競技者がボールをプレーしている、または、プレーしようとしているときに、ボールをプレーしようとして相手競技者の間ですべる（スライディングタックル）。ただし、不用意に、無謀に、または過剰な力で行わない限り、ゴールキーパーが自分のゴールキーパーエリア内で行うものは除く。

直接フリーキックは、反則の起きた場所から行う（第 13 条：フリーキックの位置を参照）。

ペナルティーキック

ボールがインプレー中に、競技者が自分のペナルティーエリア内で上記の項目の反則を犯した場合、ボールの位置に関係なく、ペナルティーキックが相手チームに与えられる。

ゴールキーパーがゴールキーパーエリアの外でプレーした場合、もしくはプレーに関与した場合、ペナルティーキックが与えられる。

パーソナルファウル

ゴールキーパー

ゴールキーパーが次の 3 項目の反則を犯した場合、間接フリーキックが相手チームに与えられる。

- ボールを放した後、ボールがハーフウェーラインを越える前に、もしくは、相手競技者がプレー、または触れていないにもかかわらず、味方競技者からボールを受ける。
- 味方競技者によって意図的にゴールキーパーにキックされたボールを直接、手で触れる、もしくは、コントロールする。
- 味方競技者がキックインしたボールを直接、手で触れる、もしくは、コントロールする。

競技者

競技者が次の項目の違反を犯したと主審・第 2 審判が判断した場合も、反則の起きた場所から行う間接フリーキックが相手チームに与えられる。

- 危険な方法でプレーする。
- ゴールキーパーがボールを手から放すのを妨げる。
- プレー中、またはボールをプレーしようとしている時、相手競技者より有利になるようフェンスを両手でつかむ。
- 相手競技者の進行を妨げる（オブストラクション）。
- フェンス際で相手競技者に対して、味方競技者とともに積極的にブロックする（サンドイッチ）。
- 相手競技者に触れることなく、相手競技者より有利になるようピッチ面に横たわってボールをプレーする。
- 相手競技者の方向感覚を失わせる、惑わすような言葉や音を発する。
- 試合中に故意に沈黙を破る。
- ボールがインプレー中に主審・第 2 審判の許可なしに、光覚を利用するために、アイマスクやアイパッチを意図的に触る。
- ボールを保持してから、40 秒間、明らかに攻撃しない。
- 第 12 条において、これまでに規定されていないもので、競技者を警告する、または退場を命じるためにプレーを停止することになる違反を犯す。

間接フリーキックは、反則の起きた場所から行う（第 13 条：フリーキックの位置を参照）。

ゴールキーパーがゴールクリアランス、または、ボールがインプレー中に、ボールを投げるか、けた後、自分自身のハーフ内のピッチ面にボールが触れるか、弾むか、ぶつからないときは、

- 相手チームにハーフウェーライン上の任意の場所から行われる間接フリーキックが与えられる。ゴールキーパーにパーソナルファウルは与えられない。

ボールがインプレー中に、ゴールキーパーがボールを手、もしくは、足で 4 秒を超えてコントロールした場合、間接フリーキックが相手チームに与えられるが、ゴールキーパーへのパーソナルファウルにはならない（13 条：フリーキックの位置を参照）。

ボールがインプレー中に、競技者がボールを足で 4 秒を超えて静止させた場合、間接フリーキックが相手チームに与えられるが、競技者へのパーソナルファウルにはならない。

懲戒の罰則

警告となる反則

競技者は、次の 8 項目の反則を犯した場合、イエローカードを示され、警告される。

- 反スポーツ的行為。
- 言葉、または行動による異議。
- 繰り返しブラインドサッカー競技規則に違反する。
- プレーの再開を遅らせる。
- コーナーキック、キックイン、フリーキック、またはゴールクリアランスでプレーが再開される時、規定の距離を守らない。
- 主審・第 2 審判の承認を得ずピッチに入る、復帰する、または交代の進め方に違反する。
- 主審・第 2 審判の承認を得ず意図的にピッチから離れる。
- 有利になるよう意図的に用具に触れる。

退場となる反則

競技者は、次の項目の反則を犯した場合、レッドカードが示され、退場を命じられる。

- 著しく不正なファウルプレー。
- 乱暴な行為。
- 相手競技者、またはその他の者につばを吐く。
- 意図的にボールを手、または腕で扱い、相手チームの得点、または決定的な得点機会を阻止する（自分のゴールキーパーエリア内でゴールキーパーが行ったものには適用しない）。
- フリーキック、またはペナルティーキックとなる反則で、ゴールに向かっている相手競技者の決定的な得点の機会を阻止する。
- 攻撃的な、侮蔑的な、または下品な発言をする。
- 同じ試合の中で二つ目の警告を受ける。

チーム役員、ガイド、ゴールキーパー、交代要員による反則

ボールがインプレー中にチーム役員、ガイド、ゴールキーパー、交代要員は以下のことをしてはならない。

- コーチやゴールキーパー、ガイドに与えられたガイドエリアを遵守しない。
- 言葉や行動で異議を示す。
- 静粛さを保てない。
- 無責任に振る舞う。

上記の反則を犯しプレーを停止した場合、主審・第 2 審判は反則が起きたときボールのあった位置（第 13 条：フリーキックの位置を参照）からの間接フリーキックを相手チームに与える。

反則を犯した者に懲戒の罰則を与えることもできる。

決定

1. 退場を命じられた競技者は、引き続いてその試合に復帰することはできないし、チームベンチに着席することも許されない。交代要員は退場になった競技者に代わることができ、退場後 2 分間完全に経過し、ボールがアウトオブプレーのときに、ピッチに入ることができる。ただし、2 分間経過する前に得点があった場合はこの限りでなく、その場合は次の条件が適用される。
 - 競技者が 5 人対 4 人のとき、人数の多いチームが得点した場合、4 人のチームは 5 人目の競技者を補充できる。
 - 両チームがともに 4 人の競技者でプレーしているときに得点のあった場合は、両チームとも同数の競技者のままとする。
 - 5 人対 3 人、または 4 人対 3 人の競技者でプレーしているとき、人数の多いチームが得点をした場合、3 人のチームは 1 人だけ競技者を補充できる。
 - 両チームがともに 3 人の競技者でプレーしているときに得点のあった場合は、両チームとも同じ数の競技者のままとする。
 - 人数の少ないチームが得点した場合には、そのままの人数で試合を続ける。

2. 削除

第 13 条 フリーキック

フリーキックの種類

フリーキックは、直接と間接のいずれかである。

直接、間接フリーキックのいずれの場合も、キックが行われるときボールは静止しており、キッカーは、他の競技者がボールに触れるまで再びボールに触れることはできない。

2人以上の守備側チームの競技者が「壁」を作ったとき、すべての攻撃側チームの競技者はボールがインプレーになるまで「壁」から 1 m 以上離れていなければならない。

直接フリーキック

直接フリーキックが行われ、ボールが相手競技者のゴールに直接入った場合、得点となる。

直接フリーキックが行われ、キッカー自身のゴールに直接入った場合、相手競技者にコーナーキックが与えられる。

間接フリーキック

ゴールに入る前に他の競技者がボールに触れた場合のみ得点となる。

フリーキックの位置

ペナルティーエリア外のフリーキック

- すべての相手競技者は、ボールがインプレーになるまで 5 m 以上ボールから離れなければならない。
- ボールは、けられて動いたときにインプレーとなる。
- フリーキックは、違反の起きた場所、または違反が起きたときにボールのあった場所（違反の種類による）、もしくは、第 2 ペナルティーマークから行われる。

ペナルティーエリア内で守備側チームに与えられた直接、または間接フリーキック

- すべての相手競技者は、ボールがインプレーになるまで 5 m 以上ボールから離れなければならない。
- ボールは、蹴られて動いたときにインプレーとなる。
- ペナルティーエリア内で与えられたフリーキックは、ゴールキーパーエリアの外で、そのエリア内の任意の地点から行うことができる。

攻撃側チームの間接フリーキック

- すべての相手競技者は、ボールがインプレーになるまで、ボールから5 m以上離れなければならない。
- ボールは、けられて動いたときにインにプレーとなる。
- ペナルティーエリア内、かつ、ゴールキーパーエリアの外で与えられた間接フリーキックは、違反の起きたところに最も近いペナルティーエリアライン上の地点で行われなければならない。守備側の壁は5 m離れなければならない。
- ゴールキーパーエリア内で与えられた間接フリーキックは、違反の起きたところに最も近く、ゴールキーパーエリアの2 mの仮想ラインとペナルティーエリアラインの交点から行われる。

違反と罰則

フリーキックを行うとき、相手競技者が規定の距離よりボールの近くにいた場合、

- キックは、再び行われる。

ボールがインプレーとなって、他の競技者に触れる前に、キッカーが再びボールに触れた場合、

- 違反の起きた場所から行う間接フリーキックが相手チームに与えられる。

フリーキックを行うチームが4秒を超えて時間を費やした場合、

- 主審・第2審判は相手チームに、間接フリーキックを与える。

シグナル

間接フリーキック

主審・第2審判は、一方の腕を頭上に上げて、間接フリーキックであることを示す。

主審・第2審判は、キックが行われ、そのボールが他の競技者に触れるか、またはアウトオブプレーになるまで、そのまま腕を上げ続ける。

第 14 条 累積ファウル

累積ファウル

- 累積ファウルは、第 12 条に規定される直接フリーキックで罰せられるものである。
- 各チームが犯した各ピリオドの累積ファウルは、それぞれ最初の 4 つまで試合記録シートに記録する。

フリーキックの位置

累積ファウルが各ピリオド、それぞれ各チーム 4 つまでは、

- 守備側チームの競技者は、フリーキックに対して壁を作ることができる。
- 守備側チームの競技者は、ボールから 5 m 以上離れる。
- このフリーキックから直接、相手競技者のゴールに得点することができる。

5 つ目以降の累積ファウルの進め方（第 2 ペナルティーキック）

各ピリオド、それぞれ各チームの累積ファウルが 5 つ目以降を記録してからは、以下のよう
に第 2 ペナルティーキックが行われる。

- 守備側チームの競技者は、フリーキックに対して壁を作れない。
- キックを行う競技者は、確実に特定されなければならない。
- キックを行う競技者は、他の競技者にボールをパスすることなく、得点を狙ってキックする。
- その他の全ての競技者は、ピッチの中の、ボールと同じレベルでゴールラインと平行に引かれた仮想ラインの後方にいて、ボールから 5 m 離れなければならない。これらの競技者は、キックをする競技者を妨げてはならない。全ての競技者はボールに触れるかプレーされるまで、この仮想ラインを越えてはならない。
- フリーキックが行われたのち、ゴールキーパーがボールに触れるか、ゴールポストかクロスバーからはね返る、またはピッチの外へ出た後でなければ、競技者はボールに触れることができない。
- フリーキックが、8 m のペナルティーマークまたは、ゴールラインから 7 m から 8 m の距離で行われる場合、ゴールキーパーは、自分のゴールキーパーエリア内にいて、ボールから少なくとも 5 m 以上離れなければならない。フリーキックが、6 m のペナルティーマークまたは、ゴールラインから 6 m から 7 m の距離で行われる場合、ゴールキーパーは、ゴールライン上にいなければならない。
- 競技者が相手チームのハーフ内、または味方ハーフ内のハーフウェーラインとゴールラインから 8 m の第 2 ペナルティーマークを通る仮想ラインで囲まれた地域で、それぞれのチームの各ピリオド 5 つ目のファウルやそれ以降の累積ファウルを犯した場合、フリーキックは第 2 ペナルティーマークから行われる。
- 競技者が、ピッチの味方ハーフ内の 8 m の仮想ラインと 6 m のペナルティーラインの間で、それぞれのチームの各ピリオド 5 つ目のファウルやそれ以降の累積ファウルを犯した場合、フリーキックを与えられたチームはキックを第 2 ペナルティーマークから行うか、違反の起きた場所から行うかを選択する。

- キッカーは、他の競技者がボールに触れるまで再びボールに触れることはできない。

各ピリオドの終了時に5つ目以降の累積ファウルからのフリーキックのために時間を追加する。

違反と罰則

守備側チームの競技者、交代要員、ガイド、チーム役員が本条に違反した場合、

- ボールがゴールに入らなかった場合、キックは再び行われる。
- ボールがゴールに入った場合、キックは再び行われない。

キックを行う競技者、もしくは、その味方の交代要員、ガイド、チーム役員が本条に違反した場合、

- ボールがゴールに入った場合、キックは再び行われる。
- ボールがゴールに入らなかった場合、キックは再び行われない。

キックを行う競技者が、ボールがインプレーとなったのち、本条に違反した場合、

- 違反の起きた場所から行う間接フリーキックが相手チームに与えられる（第13条：フリーキックの位置を参照）。

ボールインプレーとなる前に、両チームの競技者が本条に違反した場合、

- キックは再び行われる。

第 15 条 ペナルティーキック

直接フリーキックを与える反則のひとつを、自分のペナルティーエリア内でボールがインプレー中に犯したとき、相手チームにペナルティーキックが与えられる。

ペナルティーキックから直接、得点することができる。

各ピリオドの終了時に、ペナルティーキックのために時間が追加される。

ボールと競技者の位置

ボールは、

- ペナルティーマーク上に置かなければならない。

ペナルティーキックを行う競技者は、

- 確実に特定されなければならない。

守備側のゴールキーパーは、

- ボールがけられるまで、キッカーに面して、両ゴールポストの間のゴールライン上にいなければならない。

ペナルティーキックを行うチームのガイドは、

- キッカーの方向を定める。
- ピッチの中に入れない。

キッカー以外の競技者は、次のように位置しなければならない。

- ピッチの中、
- ペナルティーエリア外、
- ペナルティーマークの後方か横、
- ペナルティーマークから 5 m 以上離れる。

進め方

- ペナルティーキックを行う競技者は、ボールを前方にける。
- ボールが他の競技者に触れるまで、キッカーは再びボールをプレーできない。
- ボールは、けられて前方に動いたときにインプレーとなる。

ペナルティーキックを通常の時間内に行う、あるいは各ピリオドの時間を追加して行う、または、再び行うとき、ボールが両ゴールポスト間とクロスバーの下を通過する前に、次のことがあっても得点が与えられる。

- ボールがゴールポスト、クロスバー、ゴールキーパーのいずれか、またはそれらに触れる。

違反と罰則

守備側チームの競技者、交代要員、ガイド、チーム役員が本条に違反した場合、

- ボールがゴールに入らなかった場合、ペナルティーキックは再び行われる。
- ボールがゴールに入った場合、ペナルティーキックは再び行われぬ。

キックを行う競技者、もしくは、その味方の交代要員、ガイド、チーム役員が本条に違反した場合、

- ボールがゴールに入った場合、ペナルティーキックは再び行われる。
- ボールがゴールに入らなかった場合、ペナルティーキックは再び行われぬ。

キックを行う競技者が、ボールがインプレーになったのち、本条に違反した場合、

- 違反の起きた場所から行う間接フリーキックが相手チームに与えられる（第 13 条：フリーキックの位置を参照）。

ボールインプレーとなる前に、両チームの競技者が本条に違反した場合、

- キックは再び行われる。

第 16 条 キックイン

キックインは、プレーを再開する方法のひとつである。

キックインから直接、得点することはできない。

- ボールが相手競技者のゴールに入った場合、ゴールクリアランスが与えられる。
- ボールがキッカーのゴールに入った場合、コーナーキックが与えられる。

キックインは、次のように与える。

- ボールの全体がフェンスを越えたとき、もしくはボールが天井に当たったとき、
- ボールがフェンスを越えた場所から、
- 最後にボールに触れた競技者の相手チームに。

ボールと競技者の位置

ボールは、

- フェンスから最大でも 1 m の場所に静止させる。
- プレーに戻すため、任意の方向にけることができる。

守備側チームの競技者は、

- キックインを行う場所から 5 m 以上離れなければならない。

進め方

- キックインを行う競技者は、主審・第 2 審判が指示してから 4 秒以内にキックインを行う。
- キックインを行う競技者は、他の競技者がボールに触れるまで、再びボールに触れることはできない。
- ボールは、蹴られて動いたときにインプレーとなる。

違反と罰則

次の場合、間接フリーキックが相手チームに与えられる。

- 他の競技者がボールに触れる前に、キックインを行った競技者がボールに再び触れたとき、間接フリーキックは、違反の起きた場所から行われる（第 13 条：フリーキックの位置を参照）。

次の場合、相手チームの競技者によって再びキックインが行われる。

- キックインが正しく行われない。
- キックインが、ボールがフェンスを越えた場所以外の位置から行われる。
- 競技者が主審・第 2 審判の指示から 4 秒以内にキックインを行わない。
- その他、本条に違反する。

第 17 条 ゴールクリアランス

ゴールクリアランスは、プレーを再開する方法のひとつである。

ゴールクリアランスは常にゴールキーパーにより、ゴールキーパーエリア内から行われる。

ゴールクリアランスから直接得点することはできない。ボールがゴールクリアランスを行ったゴールキーパーのチームのゴールに直接入った場合、相手競技者にコーナーキックが与えられる。ゴールクリアランスを行わなかったチームのゴールに直接入った場合、行わなかったチームにゴールクリアランスが与えられる。

ゴールクリアランスは、

- ピッチ上、または空中にかかわらず、最後に攻撃側競技者が触れたボールの全体がゴールラインを越え、第 11 条による得点とならなかったときに与えられる。

進め方

-
- ボールは、ゴールキーパーエリア内の任意の地点から、守備側チームのゴールキーパーによって投げられる。
 - 相手競技者は、ボールがインプレーになるまで、ペナルティーエリアの外にいないなければならない。
 - ボールは、ゴールキーパーエリアの外に直接投げられたときにインプレーとなる。

違反と罰則

ボールが直接ゴールキーパーエリアの外に投げられなかった場合、

- ゴールクリアランスは、再び行われる。

ゴールクリアランスが、ゴールキーパーがボールを保持してから 4 秒以内に行われなかった場合、

- 間接フリーキックが相手チームに与えられる。ゴールキーパーにパーソナルファウルは課されない。（第 13 条：フリーキックの位置を参照）。

ゴールキーパーが投げたボールが、ピッチ面に触れるかプレーされる前にハーフウェーラインを越えた場合、

- ハーフウェーラインの任意の地点から行う間接フリーキックが相手チームに与えられ、ゴールキーパーにパーソナルファウルは課されない。

ゴールクリアランス後、ボールインプレー中に、ボールを他の競技者が触れる前にゴールキーパーが触れた場合、

- 違反の起きた場所から行う間接フリーキックが相手チームに与えられる（第 13 条：フリーキックの位置を参照）。

削除

第 18 条 コーナーキック

コーナーキックは、プレーを再開する方法のひとつである。

相手チームのゴールに限り、コーナーキックから直接得点することができる。ボールがキッカーのゴールに直接入った場合、相手競技者にコーナーキックが与えられる。

コーナーキックは、

- ピッチ上、または空中にかかわらず、最後に守備側競技者が触れたボールの全体がゴールラインを越え、第 11 条による得点とならなかったときに与えられる。

進め方

- ボールは、近い方のコーナーアークに置かれる。
- 相手競技者は、ボールがインプレーになるまでボールから 5 m 以上離れる。
- 攻撃側チームの競技者がボールをける。
- ボールは、けられて動いたときにインプレーとなる。
- コーナーキックを行った競技者は、他の競技者がボールに触れる前に、再びボールをプレーできない。

違反と罰則

次の場合、間接フリーキックが相手チームに与えられる。

- コーナーキックを行った競技者が、他の競技者がボールに触れる前に、再びプレーした場合、間接フリーキックは違反の起きた場所から行われる。
- 主審・第 2 審判が指示してから 4 秒以内にコーナーキックを行われない場合、間接フリーキックはコーナーアークから行われる。

その他の違反に対して、

- コーナーキックは再び行われる。

試合の勝者を決定する方法

ペナルティーマークからのキック

ペナルティーマークからのキックは、試合が引き分けに終わったのち、勝者となるチームを決めることが競技会規定によって要求されているときに勝者を決定する方法である。

進め方

-
- 主審は、ペナルティーキックを行うゴールを選ぶ。
 - 主審はコインをトスし、トスに勝ったキャプテンのチームが先にけるか、後にけるかを定める。
 - 主審・第2審判・第3審判・タイムキーパーは行われたキックの記録をつける。
 - 次の条件に従って、両チームが3本ずつのキックを行う。
 - キックは、両チーム交互に行われる。
 - ゴールキーパーを除くすべての競技者、交代要員にキックを行うことが認められる。
 - 試合が終了し、一方のチームの競技者数が相手チームより多い場合、競技者の多いチームは相手チームの競技者数と等しくなるように競技者数を減らす。除外するそれぞれの競技者の氏名と番号を主審に通知する。
 - 両チームが3本のキックを行う以前に、他方のチームが3本のキックを行ってもあげることができない得点を一方のチームがあげた場合、以後のキックは行われない。
 - 3本ずつのキックを行った後、両チームの得点と同じ場合、もしくは無得点の場合は、同数のキックで一方のチームが他方より多く得点するまで、交互の順序を変えずに、キックは続けられる。
 - 4本目以降は、最初の3本のキックを行っていない競技者が行う。すべての競技者が1回目のキックを行った後は、最初にペナルティーキックを行った競技者から同じ順序でペナルティーキックを続ける。
 - 退場させられた競技者やパーソナルファウルの累積で資格のない競技者は、ペナルティーキックに参加することはできない。
 - ペナルティーキックの前、途中で、医師の診断により確認された負傷の場合、ゴールキーパーは交代することができる。
 - すべての競技者とガイドは、ペナルティーキックの行われている反対側のハーフ内にいなければならない。第3審判がこの管理を行う。
 - ペナルティーキックを行うチームのゴールキーパーは、ピッチ内にいなければならない。

競技会規定

以下の規定はすべての IBSA 認可競技会と、IBSA 所属組織間の競技会で適用される。

1. 勝点
 - 1.1 勝ち：3点。
 - 1.2 引き分け：1点。
 - 1.3 負け：0点。

- 2 予選の総合ランキング
 - 2.1 全試合の最高勝点。
 - 2.2 全試合の得失点差。
 - 2.3 全試合の合計得点数。
 - 2.4 当該チーム間の試合で得られた最高勝点。
 - 2.5 当該チーム間の試合で得られた得失点差（3チーム以上が同勝点の場合）。
 - 2.6 2チーム間のPK戦、または両チームの同意のもと組織委員会による抽選。
 - 2.7 3チーム以上が前項までの基準で並ぶ場合は、組織委員会による抽選。

- 3 試合勝者の決定方法
 - 3.1 決勝、準決勝、3位決定戦、5位決定戦など。
 - 3.2 30分の試合終了時に引き分けなら、PK戦で勝者を決める。

- 4 メンバー表
 - 4.1 キックオフ 60分前に、各チームの代表者は、最終メンバー表を主審・第2審判に提出する。メンバー表には以下を含む
 - 4.1.1 先発フィールドプレイヤー：氏名、番号
 - 4.1.2 先発ゴールキーパー：氏名、番号
 - 4.1.3 交代フィールドプレイヤー：氏名、番号
 - 4.1.4 交代ゴールキーパー：氏名、番号
 - 4.1.5 ヘッドコーチ：氏名
 - 4.1.6 アシスタントコーチ：氏名
 - 4.1.7 ガイド：氏名
 - 4.1.8 医者：氏名
 - 4.1.9 理学療法士：氏名
 - 4.2 競技会期間中、氏名、番号は変更してはならない。

- 5 中止した試合の最終得点
 - 5.1 チームの責任により試合が行われなかった場合、最終得点は6-0とする。
 - 5.2 試合が最低限の競技者数を確保できずに中止した場合、最終得点は6-0、もしくは、試合の勝者のチームが6点以上を得点していた場合はその得点で、敗者チームが得点していた場合は、その得点は0とする。
 - 5.3 両チームの責任により試合が行われなかった場合、その試合に勝者はなく、両チームとも最終得点は0-6で負けたものとする。

付録
ブラインドサッカーのアイマスク

外観



よくある質問と IBSA FOOTBALL の回答

第1条 ピッチ

- Q. 試合は天然芝、人工芝で開催できるか？
A. できるが、IBSA 技術委員会の承認を受ける必要がある。
- Q. チームベンチはどこに設置すべきか？
A. チームベンチは、ピッチの外側で、タイムキーパーの机と同じサイドである必要がある。交代要員とチーム役員は守備をしている側のハーフに近いところのベンチを使う。
- Q. ゴールラインの後方は、どれくらいセーフティーゾーンが必要か？
A. 競技者の安全のために、ゴールラインと障害物の間に最低2m必要である。

第2条 ボール

- Q. ボールが完全に停止し、どの競技者もボールを見つけられない場合、主審・第2審判はどうすべきか？
A. プレーを止めてはいけない。ボールが再び音をたて競技者がボールを見つけられるように、主審・第2審判がボールを少し動かすべきである。

第3条 競技者の数

- Q. 交代の際、競技者がピッチの外に出るのを拒否した場合、主審・第2審判はどうすべきか？
A. 交代を完了するためには、まずその競技者がピッチの外に出て、交代要員がピッチに入らなければならないので、主審・第2審判は試合を続ける。
- Q. ゴールキーパーが退場した場合、そのチームは2分間、ゴールキーパーなしでプレーすべきか？
A. いいえ。交代のゴールキーパーがピッチに入れるように、1人のフィールドプレーヤーが2分間ピッチを出なくてはならない（第12条で規定された条件を除く）。2分間の後、ボールがアウトオブプレーのとき、交代のゴールキーパーをプレーさせるためにピッチを出た競技者も含め通常のメンバー数に戻ることができる。
- Q. 一方のチームの2人のゴールキーパーが怪我、または退場した場合、主審はどうすべきか？
A. 試合前に提出されたメンバー表にあるチーム役員を、ゴールキーパーとしてプレーすることを認める。各国代表チームの場合は、ゴールキーパーと交代するチーム役員は、そのチームと同じ国籍でなければならない。
- Q. B1カテゴリーのメンバー表には、最大何人の競技者とチーム役員を含むか？
A. メンバー表に記載されるのは最大15人。

- Q. いつ競技者はピッチに再入場できるか？
A. ボールがインプレーではないときに第3審判の承認のもと、競技者はピッチに再入場できる。

- Q. 医師が競技者の治療のためにピッチ内に入った場合、その競技者はピッチを出なければならないか？
A. はい。その競技者はピッチから出て、交代が可能です。その競技者は次にプレーが停止した時に再入場できる。ゴールキーパーは例外で、そのままピッチ内に留まることができる。

第4条 競技者の用具

- Q. ゴールキーパーはすね当てを着用しなければならないか？
A. はい。

- Q. 競技者は装身具類を覆うために、テープを使用できるか？
A. いいえ、競技者はいかなる装身具類を身に付けることも、覆うこともできない。

第5条 主審

- Q. 通常、主審は何を着用すべきか？
A. ジャージもしくはシャツ、ショーツ、ソックス、シューズ。

第6条 副審

- Q. 通常、副審は何を着用すべきですか？
A. ジャージもしくはシャツ、ショーツ、ソックス、シューズ。

第7条 タイムキーパー

- Q. タイムキーパーはいつ計測をスタートすべきか。主審が笛を吹いたときか、またはボールが動いたときか？
A. タイムキーパーは主審が笛を吹いたときに計測をスタートする。

第12条 ファウルと不正行為

- Q. ボールがインプレー中で反対側サイドにあるとき、ゴールキーパーがゴールキーパーエリアから出るのはファウルか？
A. いいえ、ゴールキーパーエリア外で、物理的に、あるいは口頭で積極的に試合に関与した場合のみファウルとなる。

- Q. ゴールキーパーがゴールクリアランスをした際、ボールがピッチ面に触れずにハーフウェーラインを超えてしまった場合、どうすべきか？
A. ゴールキーパーのパーソナルファウルは適用せず、試合を停止し、ハーフウェーライン上の任意の場所から、相手チームの間接フリーキックで再開する。

- Q. ゴールキーパーがインプレー中にボールを捕り、ボールをピッチ面に触れずにハーフウェーラインを超えて投げる、またはキックした場合、何のファウルになるか？
A. ゴールキーパーのパーソナルファウルは適用せず、試合を停止し、ハーフウェーライン上の任意の場所から、相手チームの間接フリーキックで再開する。
- Q. ゴールキーパーの手が、ゴールクリアランスの際にゴールキーパーエリアから、不意に出た場合ファウルになるか？
A. ならない。
- Q. ゴールキーパーがボールをけて、ボールが自陣のピッチ面に触れてからハーフウェーラインを超えて、相手競技者のゴールに入った場合、主審・第2審判はどうすべきか？
A. 相手チームにゴールクリアランスを与える。
- Q. 退場や怪我により、ガイドが不在になった場合、主審・第2審判はどうすべきか？
A. メンバー表にある誰かがガイドを務めることを許可する。もしなければガイドなしでプレーを続けさせる。
- Q. ボールがアウトオブプレーのときに、ゴールキーパーが守備の壁を作るためにゴールキーパーエリアから出られるか？
A. はい、ゴールキーパーは素早く行う必要がある。
- Q. ボールがインプレー中のときに、交代要員、チーム役員、ガイドがブラインドサッカー競技規則に違反した場合、主審・第2審判はどうすべきか？
A. もしそのことで主審・第2審判がプレーを停止した場合、ブラインドサッカー競技規則に違反した者に警告か退場を命じることができる（パーソナルファウルでも、チームファウルでもない）。プレーはボールがあった場所からの間接フリーキックで再開される（第13条：フリーキックの位置を参照）。
- Q. 競技者が1人である時に、ボールを止めるためにスライディングし、ボールをプレーするために立つのは、ファウルになるか？
A. いいえ、競技者が1人である時に、スライディングにより相手競技者より有利になってない場合に限る。
- Q. 競技者が1人である場合、両手でフォンスを持ち、ボールをプレーするのはファウルになるか？
A. いいえ、競技者が相手競技者より有利になってない場合に限る。

- Q. 一方のチームが明らかに 40 秒間攻撃をしない場合、その後、どのような手続きを取るか？

A. 40 秒経過後に主審・第 2 審判は大きな声で「5」と言い、カウントダウンを始める。その際に、手を挙げて 5 から 0 をカウントする。ボールを保持しているチームはその 5 秒以内に攻撃を始めなければならない。攻撃が 5 秒以内に開始されなければ、主審・第 2 審判は笛を吹いてボールを保持している競技者にパーソナルファウルを与える。試合は、ボールがあった場所で相手チームの間接フリーキックで再開される。

- Q. ファウルがあり主審・第 2 審判がアドバンテージを採用した場合、ボールがアウトオブプレーになった時に、主審・第 2 審判はどのように試合を再開するか？得点がされたか否かは関係なく。

A. 主審・第 2 審判は必要であれば、その競技者に懲戒罰を与える。累積ファウルとパーソナルファウルは必要なく、その時の再開方法で試合は再開される。

第 13 条 フリーキック

- Q. ゴールキーパーはフリーキックを行えるか？

A. いいえ、ゴールキーパーエリア内でも行えない。

第 14 条 累積ファウル

- Q. 4 つ目の累積ファウルの後、主審・第 2 審判が第 2 ペナルティーマークよりもゴールに近いところでフリーキックを与えたとき、どこからフリーキックを行うかでキッカーとコーチに合意が得られていない場合、主審・第 2 審判はどうすべきか？

A. 主審・第 2 審判はキッカーの意向に従う。

第 15 条 ペナルティーキック

- Q. ゴールキーパーはペナルティーキックを行えるか？

A. できない。

第 16 条 キックイン

- Q. ゴールキーパーはキックインを行えるか？

A. できない。

1 大会中の制裁

- 1大会の同じステージの異なる試合で、2度目の警告を受けた場合、その者は自動的に次の1試合に出場できない。
- 同じ試合で同じ者が2度目の警告を受けた場合、その者は自動的に次の1試合に出場できない。
- 1大会の同ステージでの警告1回は、次のステージに持ち越さない。
- 1試合で退場を命じられた場合（2回目の警告を除く）、その者は自動的に次の2試合には出場できない。
- 光覚を利用しようとし、同じ大会で2度目の退場を命じられた場合、この者は自動的にその大会の残りの試合には出場できない。
- 人種差別、身体的攻撃などの、より激しい状況があった場合は、規律委員会がその者の処罰を決定する。この処罰は最低2試合であり、その行為の程度によって異なる。
- 退場による出場停止の未消化試合は、次の公式戦（IBSA 世界選手権/IBSA 地域選手権/パラリンピックと IBSA 世界選手権/IBSA World Games/パラリンピックなどの公式予選競技会）に自動的に持ち越される。

B 2 / B 3 カテゴリーにおける競技規則

B 2 / B 3 カテゴリーの競技規則は、大会開催時の FIFA (Federation International de Football Association) フットサル競技規則と、以下の IBSA 規則を合わせたものである。

1. 試合の進行や競技者の動きに影響したり制限したりするような、ピッチで発生する太陽光や人工光の反射は避けるべきである。
2. 光の強さはピッチの全面で試合を通じて一定でなければならない。その変化はすべての状況で禁止されている。
3. このカテゴリーにおいて使用されるボールの色は、ピッチやラインと明確に違う色とする。
4. 試合中、それぞれのチームは3人以上のB 3 競技者をピッチ内に入れることはできない。
5. B 3 クラスの競技者は右腕に腕章を装着する。この腕章の色はシャツの色と異ならなければならない。
6. 試合中、各チームは3人以上のB 2 競技者を出場させることを推奨する。試合の開始時に最低2人のB 2 競技者がピッチにいないてはならない。
7. 視力カテゴリー毎に試合参加できる最大競技者数に関する規則違反を犯したB 3 クラスの競技者には、以下の手順で懲戒罰が与えられる。
 - プレーは停止する。
 - 違反を犯した競技者に警告が与えられる。
 - 違反を犯した競技者はピッチから出ることを命じられる。
 - プレーを停止したときにボールがあった位置から、間接フリーキックでプレーは再開される。
8. B 2 クラス、B 3 クラスの競技者数を決める際に、ゴールキーパーの分類は考慮に入れない。
9. ゴールキーパーは、意図的にペナルティーエリアを離れてはならない。ゴールキーパーがペナルティーエリアの外でプレーに関与し、決定的な得点機会を阻止した場合は退場が命じられ、その他は反スポーツ的行為で警告される。主審・第2 審判は相手チームに、ゴールキーパーがプレーに関与した場所からの直接フリーキックを与える。これは累積ファウルである。この例外は、以下の13 条で示す。
10. 決定的な得点機会でもアドバンテージを採用したとしても、主審・第2 審判はその後、犯した違反に応じてゴールキーパーや競技者に懲戒罰を与える。アドバンテージが採用されて得点となった場合は、決定的な得点機会を阻止しなかったため、退場にはならないが、警告が与えられる。試合はそれぞれの再開方法で再開される。
11. ゴールキーパーは、自陣のペナルティーエリア内からのフリーキックをけってもよい。ゴールキーパーがけったボールが、自陣のハーフのピッチ面や他の競技者に触れることなく、ハーフウェーラインを越えた場合、相手チームにハーフウェーライン上の任意の地点から行われる間接フリーキックが与えられる。いかなる場合も、ゴールキーパーによる得点は認められない。
12. ゴールキーパーが投げたボールや、けったボールが、ボールがインプレー中、またはゴールクリアランスで、自陣のハーフのピッチ面や他の競技者に触れられることなく、ハーフウェーラインを越えた場合、相手チームにハーフウェーライン上の任意の地点から行われる間接フリーキックが与えられる。

- 13 パワープレーの状況。以下の状況でのみ、ゴールキーパーの入れ替えが認められる。
 - 13.1 1点以上得点が少ないチームにのみ、入れ替えが許される。
 - 13.2 この入れ替えはゴールキーパーが退き、B 2 / B 3の競技者がゴールキーパーとして入場する。
 - 13.3 入れ替えはフットサルの競技規則に基づき、ビブスを交換して交代ゾーンで行われる。試合の停止中に行う必要はない。
 - 13.4 この入れ替え中、ゴールキーパーは特別の競技者としてピッチ上でプレーすることができ、フットサル競技規則が適用される。この場合に限りゴールキーパーは得点することができる。
 - 13.5 チームがパワープレーの結果、同点となった場合は、自動的にゴールキーパーに関しては、第9条の競技規則に戻る。
 - 13.6 パワープレーの状況でゴールキーパーとしてピッチに入る競技者は、フットサル競技規則4条に定める用具を装着すること。ビブスでの入場は認められない。B 3の競技者はゴールキーパーシャツの上に適切な腕章を着用しなければならない。

解説：パワープレーの状況において、B 2 / B 3の競技者がゴールキーパーとして認められる。いずれの場合も、5人の弱視の競技者が、4人の弱視の競技者と1人の晴眼のゴールキーパーと対戦することになる。パワープレーの状況で、ゴールキーパーは弱視のプレーヤーなので、競技規則第7条、第9条、第11条、第12条は適用されない。

1 大会中の制裁

- 1大会の同じステージの異なる試合で、2度目の警告を受けた場合、その者は自動的に次の1試合に出場できない。
- 同じ試合で同じ者が2度目の警告を受けた場合、その者は自動的に次の1試合に出場できない。
- 1大会の同ステージでの警告1回は、次のステージに持ち越さない。
- 1試合で退場を命じられた場合（2回目の警告を除く）、その者は自動的に次の2試合には出場できない。
- 人種差別、身体的攻撃などの、より激しい状況があった場合は、規律委員会がその者の処罰を決定する。この処罰は最低2試合であり、その行為の程度によって異なる。
- 退場による出場停止の未消化試合は、次の公式戦（世界選手権/IBSA 地域選手権/IBSA 世界選手権などの公式予選大会/IBSA 世界大会）に自動的に持ち越される。

日本語版付録

I. 審判員のためのガイドライン

1. ドロップボール

- ドロップボールはプレーが停止されたときにボールがあった地点に最も近いフェンスに向かってボールをドロップする。
- ただし、ゴールキーパーエリア内でプレーが停止された場合、守備側のゴールキーパーにボールをドロップする。

2. 試合の勝者を決定する方法 ペナルティーマークからのキック

- 試合終了後、両チームに1分間の休憩時間を与える。その間、チームはピッチ内にいなければならない。
- 第3審判はペナルティーキックに参加する交代要員にピッチ内へ入るよう伝える。1分間の休憩時間中、チーム役員はピッチ内に入ることが認められる。
- 主審と大会運営本部がどちらのゴールを使用するかを決める。

1分間の休憩時間終了後

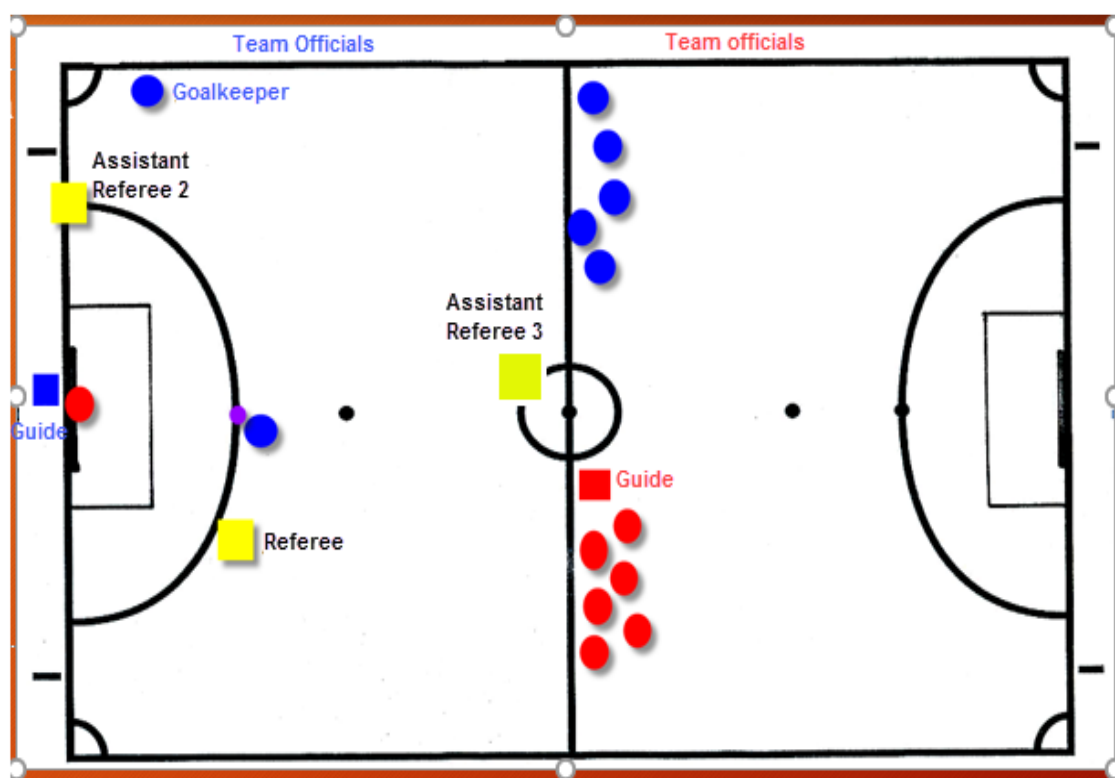
- 主審は両チームのキャプテンを呼び、コイントスを行う。コイントスに勝ったチームが先にけるか後にけるかを決める。
- 第3審判は両チームの競技者にハーフウェーラインに立つよう伝え、両チームのキックを行う競技者数が同じであることを確認する。
- キックを行わない競技者、交代要員のゴールキーパーおよびチーム役員は自チームのベンチにいなければならない。

キックを行う前の審判のポジション

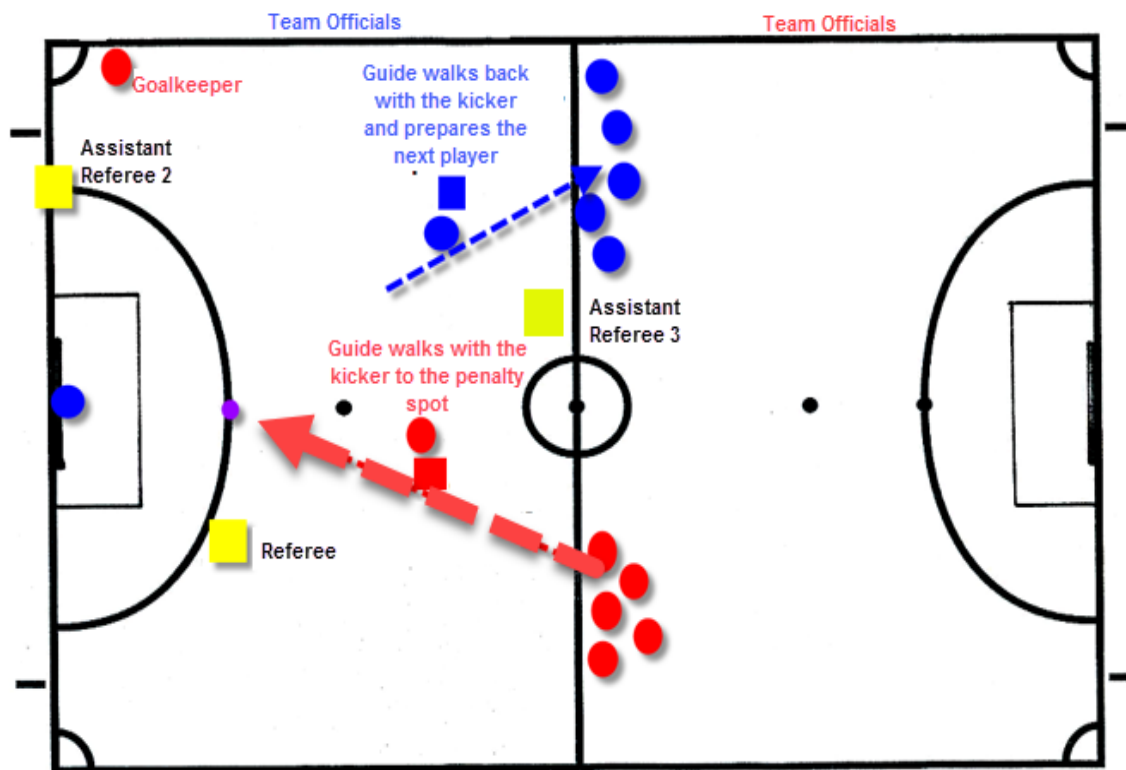
- 主審は必ずキッカーの左側に立つ。
- 第2審判は主審と反対側のゴールライン上に立つ。
- 第3審判はハーフウェーライン付近に立ち、両チームの競技者を監視する。

キックが行われている間

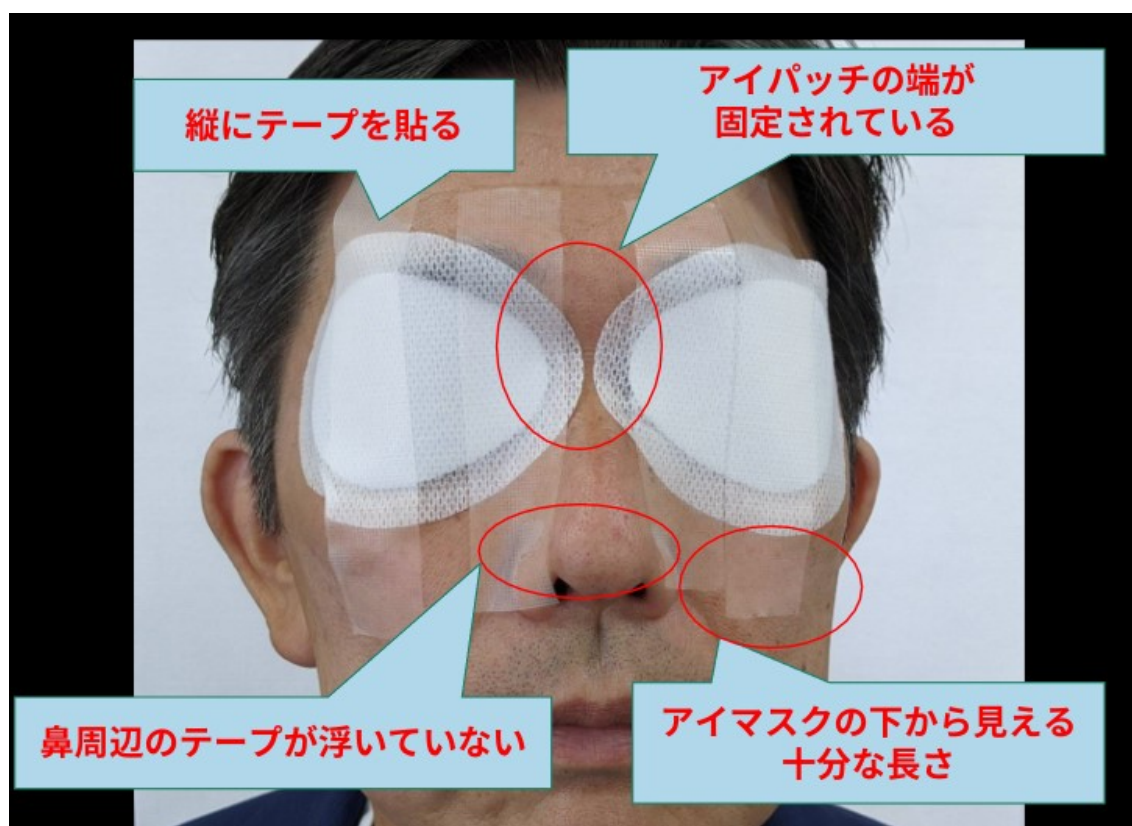
- 主審・第3審判はキッカーの番号を記録する。
- 各チームのガイドはキッカーと共にペナルティーマークまで歩き、キックが行われた後、キッカーと共にハーフウェーラインに戻る。
- ペナルティーキックを行うチームのゴールキーパーは、主審と反対側のサイドフェンスの前にいなければならない。
- 主審・第3審判はペナルティーマークからキックを行おうとする競技者のアイパッチとユニフォームなどを確認する。
- 競技者がキックを行っている間に、第3審判は次にキックを行う競技者をセンターサークルに呼び、アイパッチなどを確認する。キックが行われたらすぐに次のキッカーはガイドと共にペナルティーマークへ向かって歩き出す。



キックが行われている間の審判のポジション



Ⅱ. アイパッチの付け方



すべてのB1競技者のアイパッチは、各ピリオドの開始時、タイムアウト後、交代の前に、主審・第2審判・第3審判によって点検される。主審・第2審判は試合中いつでも点検することができ、必要なら主審・第2審判のみが判断を下す。